

強度行動障害の状態にある方々の困難を

WEBによる演習で体験するためのメニュー作成への取り組み

企画・情報部 発達障害情報・支援センター

加藤 潔 林 克也 畠山 和也 与那城 郁子 西牧 謙吾

【はじめに】 強度行動障害支援者養成研修は、平成25年度に基礎研修、平成26年度に実践研修が始まり、平成27年度からは重度障害者支援加算見直しに伴って、研修受講が義務付けられた。毎年、国リハを会場に指導者研修が行われ、それぞれの地域での研修実施における標準化が図られてきたが、今年度は新型コロナウイルスの影響を鑑み、指導者研修はWEBによる開催となった。基礎研修の中に「強度行動障害の理解－困っていることの体験」という演習が設定されているが、WEBでどのように体験メニューを組み立てるかが大きな課題となり、そのメニュー作成にかかわる機会を得た。ここではその取り組みについて報告する。

【体験メニューを作成する際に考慮したこと】 この演習の前に行われる講義「強度行動障害の理解－障害特性の理解」においては、自閉スペクトラム症の特性を「社会性」「コミュニケーション」「想像力」「感覚」の四つから整理している。その整理と連動する形で、「伝えられないもどかしさ」「意味のわからない苦痛」「見通しのもてない不安や恐怖」「感覚の特異性」という視点から体験メニューを考えることにした。また、WEBによるオンライン形式で演習を進めることや各地方の講師がそれぞれの地域で実施することを考慮し、できるだけ簡易で準備が少なくてすむような形になるよう心掛けた。

【具体的な体験メニュー】

体験の視点	具体的なメニュー	関連する特性
伝えられないもどかしさ	口を閉じて顔の表情だけで好きな食べ物や動物を伝える	コミュニケーション 「発信が難しい」
意味のわからない苦痛	あいまいな話し言葉だけで伝えられた漢字や図形を再現する	コミュニケーション 「理解が難しい」 社会性の特性 「状況の理解が難しい」
見通しのもてない不安や恐怖	説明もないままにある動画を延々と見る	想像力の特性 「自分で予定を立てることが難しい」 「変化への対応が難しい」
感覚の特異性	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉に言われた言葉を聞き取る ・一部に着目したら印象が変わる写真を見る ・小さな光が大きくなっていく様子を見る (光のまぶしさに弱い方へは事前アナウンス) 	感覚の特性 「感覚が過敏または鈍感」 想像力の特性 「物の一部に対する強い興味」

【おわりに】 この体験メニューは、強度行動障害の状態像を示している方々に限らず、自閉スペクトラム症などの発達障害の方々が生きていく上で抱えている苦しさを体験できるものでもある。強度行動障害支援者養成研修の中で示したひとつのモデルではあるが、啓発のためのコンテンツとしてもブラッシュアップしていけたらと思う。